

特定非営利活動法人 イマジン

〒427-0026 静岡県島田市扇町13-4 Tel 0547-34-3370 Fax 0547-34-3371



イマジン通信

Vol.28

新年度を迎えて ～新たなる出発～

理事長 澤島直通

新年度を迎え、会員の皆さんはいかがお過ごしですか?ご家族の中には進学、就職など新たなる出発をされた方もいらっしゃると思います。イマジンも設立して5年が経ち、皆様の声に導かれながら様々な活動、様々な事業を行ってきました。今年度は“新たなる出発”の年になりますが、まずは今年度に向けた準備、その時にやらねばならないことに奔走・没頭し、「忙しい」を口実にイマジン通信を休刊してしまったことをお詫びします。申し訳ありませんでした。

イマジンの昨年度は多忙なものでした。島田市からの相談支援事業を受託し、日々の相談支援や定期的な会合のほかに“地域自立支援協議会”の設置に向けた協議、視察など…また、相談支援は広域に行われるのが一般的になり、多くの関係機関、施設、行政との協働も行ってきました。特に志太榛原圏域の支援センターと特別支援学校(旧養護学校)で構成されるネットワークグループ“ど・まんなか”での活動は前記した“地域自立支援協議会”や“相談支援事業”に大きな影響を与えたと感じることができました。各市町がこれらを実施しようと考えたときに“ど・まんなか”の支援センターに意見や協力を求めてきていることです。これは、地域の状況や障害当事者の実態を把握していることが認められたからだと言えます。分からないことが多い新法、施設の方向性、手続きの中で“分かっている”存在であることが認められた証でもあります。必然の流れとして、同じ志や同じ視点を持っている支援者、関係機関が集まってきています。1行政1法人1施設が進めていく旧来の支援から確実に地域の個々が協働していく時期が来たと実感しています。今年度は、島田市からの相談支援事業の委託はありません。NPO法人ところが委託した相談支援事業の協力事業所という立場になります。より一層の協働を進めると共に昨年度の反省を踏まえて各個人への訪問や対応に力を注ぎます。事業所としましては、今年の2月に指定相談支援事業所になり、ケアマネージメントによる支援を行うようになりました。

相談だけではなく、ホームヘルプ事業も利用者が拡大し大きな事業となりました。現在では、93名の利用者が居宅介護や移動支援を利用して下さっています。今年の1月から行動援護の事業所にもなり日に日に利用者が拡大しています。これは行動援護の事業所が無いことも大きな要因でしょうが、今までの活動が評価された証だと思えます。サービスの提供範囲も岡部町から御前崎市までと広範囲に渡ってきています。ヘルパーの増員とともに新たなサービス提供体制、質の低下を防ぐべくスタッフのスキルアップにも努めていきます。

そして、今年度は何よりもグループホーム・ケアホーム事業がついにスタートしました。「欲しい」と多くの声を耳にしてから数年が経ちます。設立以来、学習会や講演会を始めとして皆さんと共に設置に向けた活動をしてきました。この間に、措置制度→支援費制度→障害者自立支援法と変わり、かつては“親亡き後”という大きく重いテーマが“地域の中でどう暮らしていくか?”というテーマに変わってきました。制度が変わり、障害者が様々なサービスを利用して生活するのが当たり前のようになり、イマジンにとっても“自分たちでサービス提供ができる”“する必要はある”環境が整ってきた結果と実感しています。

とても充実した多忙な昨年度を通してイマジンの第1章が終わったように思えます。皆さんの声を聞く相談支援事業、デイサービスなどの余暇支援、居宅介護・移動支援・行動援護にタイムケアを含めたホームヘルプ事業、そしてグループホーム・ケアホームといまじんの家による住居支援事業。制度外のサービスと制度内のサービスを揃えることができました。

さあ皆さん、第2章の幕開けです!今年度もご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



“ついつい雨やどり” オープン♪ ～ここまでの歩みから～

ついに待望のグループホーム・ケアホーム（GH・CH）がオープンしました！その名も“ついつい雨やどり”と言います。法人設立から5年“親亡き後”の本人たちの生活の場への不安に1つの方法として示すことができました。当初は「その時困るだろう」という漠然とした思いから学習会や講演会を開催してきました。対象者も親子共に高年齢であると考えていました。しかし、制度の変化と共に対象者が“親亡き後”の行き場の無くなった方から“自分らしい生き方”をしたい方へ移ってきました。とは言え自分で正確に意思表示のできる方は少なく、支援センターとしての活動を通して必要と思われる方へ意向を聞き取る形で入居者の選定が行われました。



今回のGH・CHは10人の定員とさせていただきました。理由としては、①制度上10人を1つの生活単位としなくてはならないこと（10人を超えると2つ目と考えられ世話人や設備を2か所分用意しなくてはならない）②居室数と入居者+世話人を比べた結果 ③緊急時の受け入れ先が必要とされていることからです。③は、そもそも“親亡き後”に比べると“親に何かあった時”です。すなわち時期的にも先に来る事態です。確立としても多いわけです。イマジンとしては“いまじんの家”を設置して対応してきましたが、親の不安も“出費”の前では姿を消します。実費負担のサービスということが困難な事態、緊急を要する事態でも利用を拒まれてきました。そこで、13の居室の内10部屋を今回のGH・CHで使用、1部屋を世話人、2部屋を緊急時対応とさせていただきました。今後の会員皆さんの意向や地域の状況、実際の運営を検討して③の2部屋の利用方法を決めていきます。次に入居者についてですが10名の入居者の内、8名が在宅生活者、2名が施設からの移行者です。この地域の課題として“駿遠学園の加齢者”がいます。児童として入所して成人になっても様々な理由で自宅に帰れない方々です。また“施設解体”“退院促進事業”など施設から地域への移行が言われてから久しく、ついに各施設の新たな移住先を探して本格的な課題となってきました。イマジンでは支援センターとして、この地域課題に取り組むべくGH・CH事業で2名の入居枠を作りました。実際に駿遠学園の加齢者であり“ひだまり荘”という生活寮で生活していた方が入居し、焼津福祉会の大井川寮の入所者が移行を前提とした宿泊体験に来ています。現在9名の方が入居をして新しい生活を始めています。入居者の年齢も最年長で36歳、最年少は藤枝特別支援学校（旧藤枝養護学校）を卒業したばかりの18歳と倍も年齢差があります。が、全体的に若い入居者となっています。正しく“自分らしい生き方”をこれからして行ってくれることと思います。入居者の日中活動は就職が3名、就労継続支援A型施設1名、通所更生施設3名、生活介護施設1名、行き先が定まらない方1名となっています。行き先の定まらない方については、次号にて詳しくお話ししたいと思います。

様々な思いと経過を経て“ついつい雨やどり”は出来上がりました。しかし、一番大きな要因は“親亡き後”となってしまった1人の方を引き取ったことから始まり、その方の唯一の強い意志が「弟と暮らしたい」という願いでした。この“弟”こそが駿遠学園から移行してきた方です。やっと4年がかりでこの兄弟と一緒に暮らせるようにすることができました。引き取った“あの日の約束”を果たすことができ、ホッと胸をなでおろしています。この兄弟にしてみれば24年掛かったことですからイマジンの4年の



比ではないでしょう。また、他の入居者に関しても、この兄が生活するいまじんの家に様々な理由で短期利用をしてきた方が弟を含めて3名、長期利用の方が1名、数年にわたり生活をした方が1名います。急に“ただの顔見知り沢島”と生活することになった本人にとってはうれしい同居者であり、宿泊者であったと思います。家の中に話し相手ができ、いっしょにテレビを見たり、料理や掃除をして過ごす…同じ時間を共有する大事な仲間は彼の心を満たしていった様を見てきました。それぞれの家庭の状況も利用理由も様々ですが、今から振り返ると全てがGH・CHにつながってきます。大半がイマジンの支援を受けてはいましたが“話す”“関わる”ことでイマジンと共に創ってきたと言えます。今なら本当に自信を持って言えます。「GH・CHは親亡き後の住まいではありません。親が元気な内に子供の住処として用意しなければならない支援です。」うまくいかなかった場合は“家に帰ればいい”じゃありませんか。生きていく為に気ままな小規模授産所から一般就労へ移行した彼は大変苦労しました。収入も自由に使えず、買いたい物も我慢して必要な物から買っていきました。全ての判断基準が“お金”でした。急に親が亡くなるのは寂しいだけではなく辛いことです。しかし、おかげで現在では、多くの入居者が生きていく力をつけました。自分で起きてきて、自分で支度をします。元気に「行ってきます」と声を掛け合って出かけていきます。帰ってくれば力を合わせて食事の準備を手伝います。自分たちでお風呂に湯を入れ、友達の入浴の支援をしてくれる方もいます。自助・共助が自然とできています。表情も豊かになり、意思表示もしっかりとするようになった方もひとりではありません。自宅にいたときには考えられなかった我慢もできます。全員が急に大人になりました。仲間の力と何よりも本人の力に本当に感心します。彼らの中には、いつかは地域に更に出て行く方もいるでしょう♪雨やどりを終え歩き出すように…



春期デイサービス

3/29(土)、30(日)に、成人の参加者17名にて春期デイサービスを行いました。今回は初めて「ついつい雨やどり」を会場にしたデイサービスです。初めて見る建物に、入ることをためらう方もいましたが、いつもの仲間に迎えられ、笑顔で足を踏み入れます。

1日目は、どら焼き作りです。みんな楽しみにしていたようで、始める前から満面の笑みです。焼き始めると香ばしい何とも言えない香り。顔くらいある大きな丸、ミッキーマウス型、ハート型、そして真っ黒などら焼き…などなど、皆、思い思いに焼いては、大歓声を上げていました。焼きたてのどら焼きとお弁当を食べた後は、近所を散策します。青空の下、月坂団地から桜の花びらに誘われてブラブラと歩き、神社を見つけて休憩、後ろから追いかけてくる仲間を待ちます。水路を覗けば丸々と太った鯉が泳いでいます。なぜか飛行機が…暖かい日差しの中、春を満喫しました。

2日目は吉田公園のチューリップ祭り☆…のはずでしたが、心配が的中し、朝から雨が降ってしまい、急ぎょドライブに変更。買ったばかりのステップワゴンが早速大活躍です！吉田港で雨宿りしながらお弁当を食べた後、雨が止んだ時間を見計らって海沿いを歩きます。ところが、途中でまたしても雨が降ってしまい、急いで車へ！御前崎をドライブして帰宅します。あいにくの雨でしたが、各車ごと仲間との間で会話や歌が弾んだようで「楽しかったよ！」の聲がたくさん聞けて、こちらも安心しました。

内容に富んだ2日間、みんなの笑顔にとっても助けられ、改めてデイサービスは全員で作り上げるものだと感じました。初めての場所でも、雨が降っても、仲間と一緒にならすべてがいい思い出になるんですね♪





平成20年度の会員になっていただきありがとうございます。

☆原田 君江様 ☆山村 勝様 ☆竹内 増美様 ☆立石 久様
 ☆中嶋 春夫様 ☆北川 温子様 ☆澤島 直通様

いよいよ新年度がスタート！今年度も会員を募集しています。昨年度は、正会員87名、賛助会員(個人)3名、賛助会員(団体)2団体の皆様に会員となっていただきました。ありがとうございました。年会費の受付は常時行なっています。新規の会員も継続の会員も大歓迎です。年会費はイマジンまでお持ちになっても下記口座まで振り込まれても結構です。イマジンの活動に引き続きご協力・ご支援をお願い致します。

正会員 5,000円 ・ 賛助会員(個人) 1,000円 ・ 賛助会員(個人) 20,000円

振込先 静岡銀行 島田支店 普通 0606771
 特定非営利活動法人イマジン 理事 澤島 直通



1月の実績

12日 ウォーキングデイサービス
 「法多山へ行こう！」

20日 サロン(あすか)
 29日 事例から学ぼう自立支援法学習会②
 サポートセンターみつばち合同主催

2月の実績

16日 事例から学ぼう自立支援法学習会③
 サポートセンターみつばち合同主催

17日 サロン(あすか)
 23日 クッキングデイサービス

3月の実績

16日 サロン(あすか)
 29・30日 春期デイサービス



お知らせ

◆◆ 平成20年度イマジン総会のお知らせ ◆◆

平成20年度イマジン総会を下記の日時に開催します。
 大きな変化のあった19年度の報告、新たなる出発の20年度の計画を始めとして、グループホーム・ケアホーム“つつい雨やどり”について講演も行う予定としています。ご多用のこととは存じますが、ご都合をつけてご出席のほどよろしくお願い致します。

また、イマジンの活動に関心のある方が近隣にいらっしゃいましたら、お声かけの上、お気軽にご出席ください。重ねてお願い致します。

日時 平成20年5月24日(土) 会場 午後5時30分 開演 午後6時00分
 場所 島田第一中学校 地域交流室

- ◎ 場所の分からない方、地図を用意しています。お気軽にお申し付けください。
- ◎ 当日は別室を用意しておりますので、お気軽にお子様をお連れ下さい。
- ◎ 年会費の受付も行ないますのでよろしくお願い致します。



連絡先 特定非営利活動法人 イマジン

〒427-0026 静岡県島田市扇町13-4

TEL 0547-34-3370

FAX 0547-34-3371

e-mail imagine@za.tnc.ne.jp

URL <http://www3.tokai.or.jp/imagine/>